

第6学年B組 外国語活動学習指導案

授業者 小室 真紀(HRT) Robert Bonilla (ALT)
研究協力者 佐々木 雅子 若原 保彦

1 単元名 How do you like ~? 違いにこだわる日本茶屋

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

ALTのRob先生へ向けて「自己紹介をしよう」という学習では、既習の「I like ~.」「I can ~.」というフレーズを用いながら自己紹介することができた。時折、Rob先生から「What is this?」と質問を受け、仲間から単語の助けをもらったりジェスチャーを交えたりしながら何とか乗り切る場面が見られた。Rob先生の自己紹介の中にあつた「like」が、自分たちの用いた「I like ~.」の使い方と異なるように思えた子どもたちは、何度か繰り返してもらおううちに、分かった部分をつなぎ合わせて想像し、「~のような」という表現にもlikeを用いることに気付きをもった子どもたちであった。同じ単語でも何種類か意味をもつことは、日本語と同じなんだという感覚をもち、表現の幅に興味を抱いた時間となった。

(2) 単元について

「美味しい」。耳慣れた言葉でもあり、使い慣れた言葉でもある。味は感覚での表現だけに、正確に伝えるのが難しい。将来、どこかで外国人と食事をする機会があつたとき、「美味しい」がより豊かに伝えられたら、美味しい食事が和やかな会話と相まって、より「美味しい」ひとときとなることだろう。シンプルに「good」だけの繰り返しでは味気ない。誰でも使っている使いやすさはあれど、言い方によっては言葉通りに受け取られないこともある。度合いを表す表現も知識として獲得しつつ、気持ちが伝わるような表情とトーンの学びもコミュニケーションの幅を広げる一助となるだろう。

本単元では、日本茶屋に留学生をお招きする。緑茶、ほうじ茶、梅茶など何種類かのお茶がメニューに並ぶ。店員に扮した子どもたちは、オーダーをとる際、訪れた留学生からお茶の説明を求められる場面が想定される。それぞれのお茶の特徴を説明する中で、留学生の好みを伺いながらオーダーの相談に乗っていく。お茶を運び、初めて口にすると日本茶はいかに…。「How do you like?」留学生のお茶を味わう表情も頼りにしながら聞いてみたくなる店員側であろう。その場で感じた味について訊ねる子どもたちと初めて口にしたら日本茶を味わう留学生との間にリアルな英語でのコミュニケーションの場が展開される。伝わらないからこそ何とか伝えようと試行錯誤するやりとりが、コミュニケーションそのもの、「対話」そのものとなっていく。相手の表情から気持ちを想像し、発話していく即興でのやりとり、ライブ感覚を楽しんでいる子どもの姿を目指して本単元を設定した。

(3) 指導について

できる限り実践的な場面を設定し、リアルなコミュニケーションの楽しさを追求した学びの時間にしていきたい。日本茶を飲んでいる留学生の表情をとらえ、店員としての子ども側はその味をどう感じているのか想像していく過程にリアルなコミュニケーションは始まる。相手の気持ちを推し測りながら声を掛ける「How do you like ~?」は、状況によってトーンや表情そして速さなどが変わってくるはずである。仲間と共に試行錯誤しながら伝え方を探っていく中で、相手の気持ちを思い量りながらやりとりする発見が生まれ、新たなコミュニケーションに対する「見方・考え方」が子どもにとって新たな価値となり、実感を伴った学びとなっていくだろう。

日本茶屋を開く子どもたちは、何種類かの日本茶の味・色などの英語表現を調べ日本茶の説明に備える。自らの英語表現が通じるのか率先して試してみる場面である。しかし、ここでは相手の意向を汲み取りながら準備した情報をアウトプットしていくことに一つの難しさと楽しさが潜む。やり取りによって、味・色だけではなく、香りなどの多様な表現方法など違いにこだわって表現していく中でコミュニケーションに幅が生まれ、よりリアルなコミュニケーションへとつながっていくのではないかと考えている。

留学生が日本茶を味わっている様子を見ている間、その表情を手がかりに相手の感じ方を推測し、「How do you like?」と聞いてみたくなる場面が訪れる。そこでは、互いの嗜好を手繰り寄せ日本茶の味に対する感じ方や経験などについて、やり取りが展開されるはずだ。日本茶に慣れている日本人としての感覚と日本茶に経験が薄い外国人としての感覚との間にあるずれが子どもたちにとっては新鮮な発見となり、異文化理解に広がりをもつきっかけともなるだろう。

留学生から予想だにできなかった質問を受け、片言の単語を四苦八苦しながらつなげ伝えようとする即興的なコミュニケーションに、リアルだからこそ得られるコミュニケーションの楽しさが潜んでいる。完全な理解は難しい。分からない部分があってもいいという曖昧さに耐え、聞き取れる言葉と状況とをつなぎ合わせ、コミュニケーションを成立させようとする意識を大事にしていきたい。

ALTや留学生には、なるべく英語で子どもたちと会話をしてもらうことで、学びの緊張感を高め、やりとりする楽しさの質を高めていく。子どもたちが英語の発音をシャワーのように浴び、正確さに気をとらわれず、英語に慣れ親しむ場になりたい。活動の途中では、仲間との作戦タイムをとる。活動してみて困ったことに焦点を当て、会話の全貌が分からないときの対処法や伝わらないもどかしさ、表情やジェスチャーといった非言語の面での気付きなどを取り上げ、仲間のアイデアから学んだことを試してみたいという意欲を高める。

リアルな活動を通して豊かなコミュニケーションの姿を実感し、英語を使ってもっと話せるようになりたいと願う子どもたちの姿を期待している。

3 単元の見直し

- (1) 相手が欲している味を想像しながら、日本茶の味を紹介する英語でのやりとりを通して、表情を意識したり、ジェスチャーの効果を感じ取ったりしながらコミュニケーションをとることを楽しもうとする。
- (2) 日本茶屋を開く疑似体験を通して、味を伝える表現の仕方や相手の味の好みを伺う表現を積極的に使おうとする。
- (3) いくつかの日本茶を比べる活動を通して味や香り、色などの英語表現を理解したり、度合いを表す英語表現に気付いたりする。

4 単元の構想（総時数 4 時間）

※CT英：チャレンジタイム英語の時間

時間	学習活動	教師の主な支援 (H) : HRT, (A) : ALT	評価
1	単元のゴール：違いにこだわりをもって日本茶を紹介できる日本茶屋を開店しよう！		
	(1) 日本茶の味の表現の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本茶屋で留学生にお茶を出す一場面を想定し、留学生が飲んでみたいお茶の味に対して的確に尋ねたり答えたりできるような英語表現を ALT とのやりとりから獲得できる場の設定をする。(H) ・ より実際の場面を想定した英語での会話となるよう、ALT の発音を聞き取る学びの場では、音の強弱やリズムに着目させていく。(H & A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本茶の味の違いを表すときの表現を ALT とのやりとりから学び、音の強弱やリズムを意識しながら積極的に音声として試している。
2	(2) ALT の表情や味についての説明をもとに ALT が飲んだ日本茶の種類を当ててクイズを通して「How do you like it?」の表現や味以外の表現を試してみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に学んだ味の表現に加え、ALT とのやり取りの中で色や香りを表す表現、度合いを表す表現などに視点を当て日本茶の違いを表す英語表現の幅を広げていく。(H & A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「How do you like it?」をきっかけに、既習の表現に加え、色や香りを表す表現、度合いを表す表現などを用いながら、英語でのやりとりを楽しんでいる。
CT英	日本茶の味や香りを表現する英語表現に慣れ親しむ。		
3	(3) ALT を日本茶屋に招き、日本茶の味の違いを説明したり「How do you like it?」を使って ALT が好む日本茶を聞き出したりしながら日本茶屋の開店に必要な準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT には、お客役としていくつかの質問を投げかけてもらい、英語を用いてのコミュニケーションのイメージを広げるという点での課題を明らかにし、次時への意欲を喚起する。(H & A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「How do you like it?」をきっかけに相手の状況に合わせた説明ができそうだという感覚をもち、日本茶屋を開く準備を積極的に進めている。
4 本時	(4) 留学生に日本茶の味や香りなどの違いを説明したり「How do you like it?」を使って留学生の味の好みを聞いたりしながら、留学生が好む日本茶を出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨場感をもって「How do you like it?」を用いたやりとりができるよう、留学生は英語のみの会話、子どもたちは、知っている言葉をつなぎ合わせながら試行錯誤する場面を設定する。(H) ・ お茶を飲んでいる時の表情から察した尋ね方ができるよう、「How do you like it?」の場面を取り上げ、相手の気持ちに合わせたトーンの工夫を意識化していく。(H & A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の表情から気持ちを察しながら「How do you like it?」と問い返すことをきっかけに、分かった部分にフォーカスを当て、その部分をつなぎ合わせて聞き取ったり、話したりしながら留学生と広がりのある英語でのやり取りをしている。

5 本時の実際 本時 (4 / 4)

(1) ねらい

留学生の表情から気持ちを察しながら「How do you like it?」と問いかけることをきっかけに、日本茶を話題に楽しみながら英語でのやりとりを広げることができる。

(2) 展開

○：「仲間との対話」を通して新たな価値を創造するための手立て

時間	学習活動	教師の支援 (H) : HRT, (A) : ALT 評価
7分	① Rob 先生からアメリカならではの飲み物の紹介を聞き、形容する単語を3つ聞き取りカタカナで書く。	<ul style="list-style-type: none"> この後やりとりをする留学生の流暢な英語でも、聞き取れる部分があればおおよその内容が分かるかもしれないということに気づき、聞き取れたことに喜びをもって日本茶屋の活動に向かえるよう、高速→普通→ゆっくりの3段階の速度で行い、耳を慣らす場とする。(A)
10分	② 日本茶屋を開き、留学生に日本茶の紹介をする。	<ul style="list-style-type: none"> 留学生を相手に「How do you like it?」の表現が伝わるのか試してみる疑似体験の場を設定する。(H)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>Today's Goal 留学生を日本茶屋に招待し、違いにこだわって日本茶の紹介をしよう！</p> </div>		
8分	③ 感想を発表し合う 【仲間との対話】	<ul style="list-style-type: none"> リアルな会話の体験を味わうことができるように留学生には、英語のみで会話をしてもらう。 会話で困ったときに ALT に質問ができるのは一人1回までとする。できる限り、会話の中の分かった部分にフォーカスを当て、その言葉をつなぎ合わせて話の内容を想像してみるよう促す。(H) & (A) 相手の意向を意識した会話の必要性を体感できるよう、メニューを媒介にした場面だけでなく、注文した日本茶を待っている間、日本茶を飲んでいる最中や飲んだ後にも状況に応じた会話を楽しむことができるような場を十分に保障する。(H) <p>○ 子どもからは、感想、気付いたこと、困ったことなどを、留学生からは、やり取りの中で不自然に感じたり困ったりしたことなど、それぞれの立場からの気づきを取り上げ、コミュニケーションを図る楽しさに触れた理解を深めていく。その際、ALT からは、やり取りがより自然に行われるための視点から話をしてもらう。(H) & (A)</p> <p>○ 「How do you like it?」の言い方の工夫について気づきをもつことができるよう、日本茶を飲んでいるときの留学生の表情を捉えて受け答えをしていた子どもの姿を取り上げる。(H)</p>
15分	④ 話し合ったことを手がかりに2回目の活動をする。 【仲間との対話】	<p>○ 子ども同士が2回目の活動の対策を練る場を保障し、試行錯誤したやり取りへの意欲を高める。(H)</p>
5分	⑤ 日本茶を紹介する疑似体験を通して、初めて知ったことや改めて実感したことなどについてふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> 新しい自分を発見したり仲間の姿に着目したりしたふり返りを紹介し、本時の学びを整理する。(H) 伝わった喜びを感じたり学んだことを実感したりできるように、実際にどう伝わったのかを留学生から紹介してもらう。(H)
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>相手の表情から気持ちを察しながら「How do you like it?」と問い返すことをきっかけに、分かった部分にフォーカスを当て、その部分をつなぎ合わせて聞き取ったり、話したりしながら留学生と広がりのある英語でのやりとりをしている。 (日本茶を紹介する活動、ふり返り)</p> </div>		

(3) 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造する子どもの姿

